

## 第5回本町BASE市民ワークショップ

日時：令和6年9月2日（月）午前10時30分～正午  
令和6年9月2日（月）午後7時～午後8時30分  
場所：本町BASE

### 1. 今後のスケジュールについて

日にち	内容
7月24日(水) 随時	<u>第4回市民ワークショップ(市の方針[今後の活用])</u> 本町BASEの管理運営打合せ会
8月26日(月)	<u>市議会全員協議会</u>
9月2日(月)	<u>第5回市民ワークショップ(方向の決定、意見交換)</u>
9月下旬	<u>第6回市民ワークショップ(利用の検討、条例・規則)</u>
10月中旬	12月補正予算案提出 12月条例案提出
11月上旬	政策検討会議、法令審査会
12月議会	条例・補正予算審議
12月議会議決後	運営準備(会計年度任用職員募集・採用、利用申請受付他)
令和7年1月下旬	新しい施設運用(貸館)開始予定
令和7年4月～	主目的の本運用(創業支援・貸出)開始

### 2. 第1～4回市民ワークショップの振り返り（別紙資料）

### 3. 本町BASEの今後の活用について（別紙資料）

### 4. 意見交換

### 5. その他

## 2. 第1～4回本町BASE市民ワークショップの振り返り

回数・開催日時・参加者数	内容	概要
<p>第1回 令和6年2月15日(木) 19:00～20:30・13人 令和6年2月16日(金) 10:30～12:00・9人 計22人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公の施設として管理・運営する場合の基礎知識</li> <li>・本町BASEの使用について何が変わる(共通事項)</li> <li>・指定管理者制度について</li> <li>・質疑応答</li> <li>・アンケート</li> </ul>	<p>「公の施設の基礎知識」と「公の施設と指定管理制度」(地方自治法の成り立ち)の勉強会を開催 →公の施設として、施設条例・規則を制定し、運営が行われる際にこれまでと何が変わるかを学ぶ。関連して質疑応答とアンケート取得</p>
<p>第2回 令和6年3月28日(木) 19:00～20:30・8人 令和6年3月30日(土) 10:30～12:00・6人 計14人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回市民ワークショップの振り返り</li> <li>・第1回市民ワークショップでのアンケート結果報告</li> <li>・公の施設としての目的と活用方法について</li> <li>・条例・規則について</li> <li>・意見交換</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> <li>・アンケート</li> </ul>	<p>第1回市民ワークショップの振り返りとアンケート結果を共有し、公の施設としての目的と活用方法について、次の2案を提示①コミュニティ施設の場合、②創業支援施設の場合。意見交換を行う。屋外の一般主催(キッチンカー、テント)の利用ができなくなることを説明。また、施設条例とは、大枠の条文は決まっており、施設の設置目的や開館時間や利用料金などが個別に決めていくことについて説明。質疑応答とアンケート取得</p>
<p>第3回 令和6年5月22日(水) 10:30～12:00・3人 令和6年5月22日(水) 19:00～20:30・2人 計5人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のスケジュール</li> <li>・第1・2回市民ワークショップの振り返り</li> <li>・第2回市民ワークショップでのアンケート結果報告</li> <li>・公の施設としての目的と活用方法</li> <li>・意見交換</li> </ul>	<p>これまで、施設の条例制定や補正予算を6月議会、7月再開を館を目指してきたが、ワークショップ参加者との意見も踏まえて、公共施設としての方向性や施設の目的を明確にする必要があることから、早ければ9月議会上程の10月再開を目指していくことを説明。また、これまでの意見や庁内会議の中で施設の目的と活用方法について2案(まちなか交流施設、穏やかな創業施設)を提示し、参加者から意見を募った。</p>

回数・開催日時・参加者数	内容	概要
第 4 回 令和 6 年 7 月 24 日(水) 10:30~12:00・5 人 令和 6 年 7 月 24 日(水) 19:00~20:30・5 人 計 10 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のスケジュール</li> <li>・第 1~3 回市民ワークショップの振り返り</li> <li>・本町 BASE の今後の活用について</li> <li>・意見交換</li> </ul>	内容を精査する必要があることから、スケジュールについて条例、補正予算は 12 月議会、1 月からの再開となることを説明。また、これまでの WS や庁内会議で検討したなか、本町 BASE の活用について、商工課所管による「関市内で創業を目指す人のための拠点施設」(案)を提示。数カ月を想定してワークショップとチャレンジショップを繰り返しながら創業プランをブラッシュアップする育成プログラムをメインとして、メインの隙間時間(施設を使用しない期間は貸館として利用してもらう想定で意見交換を行った。

#### <第 4 回本町 BASE 市民ワークショップ意見交換>

※午前・夜と一部重複した内容を割愛しています。

[午前の部]

- (意見) 明日、都市計画課主催で行われるウォーカブル勉強会で考えている目的と同じエリアにある施設であるが、目的にズレを感じる。創業支援をど真ん中にせず、一つの柱としてはいいが、もう一つの柱として本町のこの施設に人が集まってくるという柱を設けてほしい。
- (質問) 前回参加していないので基本的なことを聞きますが、外の貸し出しは無しなのか。一般利用の規約もこれから作るのか
- (市) 法律上、そこ(施設の外)は使えない。(施設内の)一般利用についても、公共施設になるため、住民の福祉が前提で、市外の人でも関市内で創業したいという意思があるか。そうでない人はちょっとということになると思う。
- (質問) 市外でお店をやっている人が出店することはダメ?にぎわいを生むためには利用できるというが。
- (市) その理由は減るといえるか、最初にはじめていくことになるかもしれない。あくまでもチャレンジする人に市内の方で、伴走して出店するというのは、空きがあればしていただけるが、市外は利用料金に差をつけるなど、考えていきたい。
- (質問) 育成プログラムは誰がやるのか
- (市) 検討中。セキビズがやるのか、業として行っている民間会社がやるのか、ないと思うが商工課が直営で、外部講師を探してきてその都度呼んでやるか、まだ決まっていない。今まで手をつけていなかった初期段階の創業支援をやりたい。
- (質問) 高校生が短期でお店をやりたいというのは有りか?

- (市) チャレンジラボ(仮称)なので有。無いのは安いからお金儲けで使いたい人はなしにしたい。ただそのルールを上手に作れるかが問題。たとえば、お金儲けでやりたい人が、新しい分野で挑戦したいと言ってきた場合、見抜けるか。本当にチャレンジしたい人に使ってもらいたい。前の本町 BASE でも明らかにこれは金儲けだなというのはあったが、ルールができていなかったため、排除できなかった。高校生がやってみたいというのは問題ない。店舗でも新しい何かに挑戦したというのをルール化していきたい。
- (市) 人口規模から考えても、市内の人の創業希望者だけでは限られてしまうため、市外の人でも関市で創業したいという意欲のある人はひろっていききたい。申込書に意欲欄を設けるとか、料金に差をつけていくとか。
- (市) 前の本町 BASE の一番の目的はにぎわいづくりであったため、キッチンカーを平日無料で入れていたのは、無料でも来てもらってにぎわいづくりを行っていたが、公共施設となると公共なりの目的を持たなくてはいけない。そこが創業支援。それを理解してもらう人に利用してもらいたい。
- (市) すきまで入られる方も、その時点では出店まではとっと思っても、ここでやるにつれ、創業支援プログラムをやっていると参加してやってみようとする人も出てくるかもしれない。
- (意見) 本町通での創業支援、セキ日和みたいなのを定期的に行うとか、創業支援をもらった後に、上手に本町通につないでいってもらいたい。
- (市) オーナーさんに直接、市役所が交渉するのは宅建の資格もなく、不動産屋の仕事となるため、やれないこと。補助制度をつかったり、イベントを行って誘導することくらいしかできない。将来の話ですが市の意欲を組んでくれる宅建の資格を所有するまちづくり会社があれば、市が連携をとってそのまちづくり会社が仲介を行うことができる。他の市町ではまちづくり会社が活躍している。まちづくり会社が建物を借りて修理して、それを貸したり、デベロッパ的な役割を担っている(美濃市とか)。
- (市) 生活している家屋、店舗とつながっている。切り離すお金を援助してくれないかという問い合わせがあるが、役所の補助制度は生活部分には出せない。個人の資産になるため。借りる側には補助制度がある。ただし、一方で補助があるからそれにもたれて家賃が下がらないとの声もある。月に1回でも2回でもよければ貸してもいいという声もあるが、ずっとは先ほどの話で難しい。
- (意見) 自分の行先が見えれば、チャレンジする気にもなるのではないか。
- (市) 週末に他の異業種と組んでおこなうのもありかと思う。
- (意見) セキビズは創業だけがメインじゃない。売上アップが相談だったりする。
- (市) セキビズもまだ、創業支援についてはどのように取り組めるかはこれから。
- (市) もしこの案でいけそうであれば、役所のルールでコーヒースタンドは(直営で)できない。コーヒー出しながら作ったものを一緒に出したいというのもコーヒースタンドではできない。ここも貸出しするかも。今までのようにここでコーヒーが飲めるわけではない。
- (質問) 1月から空いていれば、前のように3件仲間で借りることはできるか

- (市) 今までと違う制約はでてくる。条例規則を定めるため、1月からの仮オープンでも条例規則に従って貸し出しとなる。今までの本町BASEのようにいかない。
- (市) 創業支援ベースでいきたいから、工房使いだけでは貸せなくなる。共有スペースは、市役所でいう1階のアトリウムと同じ、貸し切りはできない。勝手にきてミーティングしたりはできる。占有はできない。
- (質問) 人とのつながりを作りたいから利用するのはありか。
- (市) ルールの中でおこなってもらうことはいい。
- (市) ここで話したことを役所の中の調整会議等で話をしていき、結論がでるのが大体8月下旬ころ、その頃にワークショップを開いて運用に関して意見交換をしたい。
- (意見) 本町BASEに興味は薄れてきているため、状況を市民の人に知らせてほしい。
- (市) ワークショップの内容や資料は、随時ホームページにアップして公開している。
- (意見) “ワークショップ”という言葉が重くて、ハードルがあがっている。ホームページやインスタが見れない人もいるため、新聞等にも広告を掲載したらどうか。
- (市) ネーミングはまた考える。
- (意見) インスタにはこの意見交換の容量は載らない。インフルエンサー並みにフォロワーはいるため、告知はみんな見ているので、ホームページへのリンクをインスタにあげては。キャプションにURLがはれないので、ストーリーにあげるといい。ワークショップに参加するといろいろ教えてもらうため、みな参加すると思う。
- (市) 決まった後には4月以降こうしていきますというのを広報に掲載していく予定。
- (市) こういった形で手取り足取り創業支援をやっている市町があまりない。育成プログラム部分は委託し、施設の管理や受付は商工課で行う。
- (意見) 前回の意見で本町でわざわざお店を出すメリットがあるかという意見もあるが、本町通りで意味があると思う。
- (市) 秋ごろから今年、エリア計画の調査を行う空家を30件くらいそのうちの4件くらいを選び、空き家活用のプランニングを行う予定。今後そういったところにアプローチが行えるといい。そういったところをまちづくり会社や支援企業となる金融業、関信用金庫とかが支援してくれるといい。セキビズの役割は昔はまち金が行っていた。将来的にその体制に戻るのが望ましい。岐阜市の玉宮が盛り返しているのは、十六銀行が出向して入っている。

#### [夜の部]

- (質問) チャレンジLABO(仮称)、セキビズの経験からどれだけの頻度や受入件数を想定しているか(余白がどれくらいあるか)
- (市) 理想的には、2~3組人が1つで1クール2~3か月を同時進行でいきたい。ただし、理想であるため大部分が一般利用となる可能性もある。セキビズ

のセンター長と話をした際に、セキビズにこれまできた方で思いつきだけでくる方もいて「それだけでは創業できませんよ」とか「こういう準備がいりますよ」とアドバイスをすると次来ない人が結構いる。そういう人のことを考えると、先ほど想定したパターンで、年間3クールか4クールくらいはあるのではないかと考えている。今月頭に創業セミナーを開催して参加者10名くらい。その方々はたまごではなく本気で目の前で創業を考えていて、あとどうしたらいいかという方で、ここはカウントが違うが創業したいというニーズはあると思っている。最初は施設の一般使いが多いかもしれない。

(質問) (チャレンジLABO(仮称)の) 出店は週一のイメージか

(意見) [市からの照会を受けて]たまごの状態の方では2週間に1回くらいではないか。理想から言えば毎日できる状況を作っておかないと創業は難しい。

(市) 金土日営業して、2週間勉強の期間をとって行うイメージもある。

(市) 飲食だけを考えているわけではなく、サービスを提供する例えばマッサージであったりとかもここでできれば応援したい。業態によっても出店頻度は変わるかもしれないが、すきまの部分はまあまあとれるかと思う。

(意見) 前向きにいいなと思うが、使っていた側として、心配なことは出店料が安いから一つのポイントになりかねない。関市で創業するつもりがない方が安いがために入ってしまう。創業者と一般の人と分けた時に本当に関市で創業したい人が、お客さんからはわかりづらい。思い入れがある、関市で創業する人は関市の人に応援してもらった方が有利なので、その差別化をこちらでしてあげないと、隙間利用の一般の方でプロの方が入ってくると負けてしまう。同じタイミングでカレーをやられると負ける。チャレンジLABO(仮称)の業種と同じものは主催者側でその期間はNGを出すなどしてあげないといけないと思う。

(市) 本町BASEの反省点として、お金を儲けたい、お客さんを増やしたい。安いから利用する人がまああった。お金儲けだけを考えている人は排除したいが、文書にしてルールができるか難しい。たとえば、マルシェに出店したい。ものだけを作りたい人は遠慮願、ここで販売をしてもらいたい。市外の人を排除するつもりはないが、安いから来る人は遠慮いただきたいため、今後の運用の中で制限をどうするか。ここはチャレンジする場所で、新規の分野で挑戦したい人であれば、既存のお店を持っていてもそこではできないのであれば、ここでチャレンジすることで新たな分野で活躍していただけるのであればOK。その見極めは運用でうまくいくかどうかわからないのが課題。

(市) 公共施設で条例を作る以上、“住民の福祉”が大前提。市外の方が使う前提では条例は作らない。例えば、市外とかほかでお店をやっていますよという人は市内の人に比べて使用料を高く1.5倍や2倍とるとか、市内で起業する意欲はありますかという項目を(申請書に)つくって印をもらうとか、本当にそうなのかはあいまいだけど、運用面でそういった部分を決めていく必要がある。

(市) ある程度、妥当な値段で検討している。今までの本町BASEと何が違うかというのは、目的が違う。今までの本町BASEの一番の目的は“賑わいの創出”であった。変な例を出す、平日のキッチンカーの出店は無料だった。なぜかというキッチンカーやってる人はもともと顧客がいて影響力が強い。そ

こを呼ぶことによって中に入っている人たちにも相乗的に効果が得られると考えて無料でも来てくださいというスタンスであった。今度は、物理的に外が使えないというのもあるが、どちらかというにぎわいを作れば何でもいいという考えではなくて、創業支援をメインにおきたい。その副次的な効果でにぎわいが生まれることは大歓迎です。にぎわいができれば安くしてどんどん来てくださいという考え方からシフトした。安ければチャレンジしやすいのは当然だが、バランスを考えて行う。

(質問) 創業支援がメインとなることで利用制限が変わってくる想定されることは。

(市) 一般使いとして、先ほども述べた工房だけの人は使えませんか、市外の方で関市内で創業を目指しているわけではない方は、料金に差が出る。

(質問) まちなかにあるメリットを活用するべきではないか。チャレンジラボ(仮称)を応援する人はだれか。普段、コミュニティを維持しておかないと、お客さんが来ないことが想定されるのでは。創業支援の基本的なことで広告をうってあげるとか、人が来てくれるためのコミュニティをどう維持していくかを盛り込んでもらった方がいいと思うが。

(市) チャレンジLABO(仮称)は初心者を用意しているため、お客さんを寄せるのは大変だと思うが、それも含めて創業育成だと考えている。育成プログラムの中で、どうやってお客さんを獲得するのか、どうやって広告戦略が必要なのかを一緒になって考えることが大切。今までの本町BASEはご自身の宣伝もあるが、加えて本町BASEが発信して手厚くやってきたことがあるが、それはラボの運営の中で考えていきたい。今までのように何でもかんでも市役所がお膳立てをするのではなく、失敗する経験をもらうことが大切。オレンジ色の人のところでにぎわいも生まれると思うが、その人たちの力を借りて賑わいをつくろうという考えはない。その方々はその方々で上手に活用していただいて、ご自身の活躍の場としてもらえばよくて、チャレンジショップにちゃんと人が来るかはラボの中で解決できる仕組みを考えたいと思っている。ここで、チャレンジLABO(仮称)の運営をどうするかというところですが、基本的には外部に委託をしたいと思っている。こういうことを専門的にやる企業もあり、オファーもある。またセキビズもやってみたい(やれる)と話しています。そのどちらかと考えている。業者の場合、一社はオファーがあるし他にもあると思うので公募にかけることになるが、セキビズであれば業者指定となるかもしれない。これから詰めていきたい。事業開始は4月を想定。債務負担をかけて年度内に決定していく。どこにも決まらなければ直営(講師を探してきて毎回来てもらいセミナーみたいになる)となる。どこかに委託するにしても館の管理運営は荷が重いので商工課が直営で行う。例えば清掃業務、電気料の支払い、修繕とか。チャレンジラボ自体の運営を委託。一般利用の受付等は市が直営で行うため、会計年度任用職員をおきながら、マネージャーを一人置いて一般受付のコントロールやラボの委託業者との連携を行ってもらう。もう一つ変わってくるは、ホールは市役所と言う1階のアトリウムと一緒に。開館日は空いていて、ミーティング、飲食、仕事してもいいが貸し切りができない。開館時間は夕方までを想定して、市がセミナー等を夜行うことはある。

- (質問) イベント利用で国際交流でワールドカフェとかは可能?
- (市) 市の関係課が行うことは可能
- (質問) 誰が来てもいいお店をやるようなイベントは?
- (市) 住民の福祉に準ずる市の政策に合致するものであれば、その担当課が入って使用ができる。ふるさと夏祭りは商工課が入っている。
- (質問) ハロウィンパーティーをやりたい場合は
- (市) 例えば、商工課に自分たちの金儲けではなくて商店街のにぎわいづくりとしてやりたいと市と協議してもらいながら該当すればいけると思う。市役所に関係ないものはダメ。あと、高校や小中学生が行うのはどこかの課が絡むと思うが金儲けではないため、いけると思う。市が行う事業でも材料費だけ頂きますというの是有りうる。
- (質問) 創業支援でたまごと言われていたが、これは子どもでもいいのか。
- (市) 関市内で創業を目指すというのが大前提。
- (質問) この取り組みはすごくいいことなんだが、関で創業するメリットがあまりない。自分は関市民なのでメリットがあるが、関で創業するバックアップはあるか。
- (市) 市が行うビジネスプランコンテストにつなげていったり、中心市街地エリアだけになるが出店する際の改装費の補助であったり、店を借りるときの家賃の補助がある。市役所は市外で創業する人に投資することは無理がある。おっしゃるように関市で創業するより、どこか市外に行った方が儲かるかもしれませんが、現実的には関市で創業するひとを応援したい。商工課のイメージとして、創業したいという人を一貫して応援していける事業として行いたい。
- (質問) 新規事業をしたいという人は?
- (市) セキビズでそういう相談がよくある。既存の企業が、たとえば、販売する部門を持っていないとき、物販の新しい事業を行いたいという相談が、例えばセキビズにあった場合、この事業につなげてもらい、テストマーケティングの場として使ってもらうことはいい。セキビズもそこは期待している。飲食だけでなく刃物屋さんも製造は一生懸命やって、新しいもの作りたいけど、販売部門を持っていないからやってみたいというのは大歓迎。
- (質問) 応援店舗の棲み分けが大事では。ポイント制を取り組むとか。来た人が応援に参加できる仕組みが欲しい。
- (市) 今までとは変わって、創業を応援している施設というのを全面的に出していきたい。ここに入っている人はみなチャレンジャー、だからあたたかい目で応援してあげましょうとうまく宣伝していきたいと思っている。お金儲けみたいに見て取れるところは遠慮してもらいたい。
- (質問) チャレンジラボのイメージ、希望者が来たら委託料が発生する仕組みなのか、応援の仕組みまで考えて行うのが仕事なのか
- (市) 応援の仕組みまではまだ考えていないが、1件でどんだけみたいな契約ではなく、年間の運営を含めて委託になるとおもう。はっきり言うと申込者が多くても少なくとも委託料は変わらないことになるかと思う。応援に参加できる仕組みがあれば、ここの意味合いも人に広く伝わる。前の本町 BASE の課題の一つ

として、本当ににぎわいの創出になったか、ここに出店する有名は商品を買いたい人が来て、買ったら帰るであった。

(市) キッチンカーのような呼び水は無くなるので、(セキ日和の)平野さんとも協力をお願いしていかなくてはいけないのですが、セキ日和は年に2回。例えば、本町6・7丁目でセキ日和を金土日で月1~2回行うなど、一緒にやっていないとこちらの価値をあげていくことが難しいかもしれない。

(意見) 普段からのにぎわいを醸成するために、館の運営も直営ではなく民間をお願いしていくのはどうか。

(市) 将来的には施設管理まで長けている民間がおこなっていければよいが、来年には整わない。スタートは直営で行っていき、2~3年の段階でまちの賑わいを担う団体にバトンタッチできれば商工課としてはありがたい。

(質問) 大垣でチャレンジショップをやっているところは、外に看板が出ている。今日はこういう人がきているとわかるものを作ってほしい。

(市) いただいたご意見等参考にしながら、庁内検討会議でももんでいきたい。8月9月にも意見交換会を開催予定。できるだけ多くの方に参加いただいて、決めていきたいため引き続き参加をお願いし

### 3. 本町BASEの今後の活用について

#### ○休館日について

- ・月曜日及び火曜日の週休2日を予定  
(火曜日が休日と重なった場合は開館し翌日が休館)  
[理由]スタッフのシフト体制、平日の利用者数が週末・土日に比べて少ないと予測

#### ○使用時間

- ・午前9時～午後5時  
(夜の一般貸出しはなし。時間外は市主催共催のセミナー、講習会、イベントのみ使用可能)  
[理由]スタッフのシフト体制、夜の利用貸館はこれまでも工房使用が多かった

#### ◎使用期間

- ・一案として5日、使用者や条件により日数を変えるかどうか  
[理由]週休2日であること、2週間など長い期間の貸出しは利用者が限定されてしまうため

#### ◎使用条件

- ①新規創業希望者もしくは市内の創業後5年以内の事業者が最優先
  - ②新規業務開拓等チャレンジャーが次優先
- ※市内の開業済み事業者を完全に無しにすることは難しく優先度は低いが使用可能
- ※市内の創業後5年以内の事業者は新商品や新サービスにチャレンジすることを要件に加えるか

#### ◎使用料 (午前9時～午後5時) 冷暖房費込

区分	全日 ①案	全日 ②案
飲食店舗	3,000	4,000
物販店舗	2,000	3,000
シェアキッチン	4,000	5,000
コーヒースタンド	3,000	4,000

[理由]他自治体の創業支援施設の料金、県内の民間シェアキッチン等を参考。  
また、設備と光熱水費の比較で料金を区分

市内外区分 市内在住(在勤・在学区分はなし) 市外在住←\_\_\_\_\_倍

状況区分 創業希望者・新規業態・お試しチャレンジ  
既開業者←\_\_\_\_\_倍

非営利区分 基本、営利を伴うものとして区分無し 交流やチャリティーは関係課と都度協議

## 本町BASEの今後の活用について

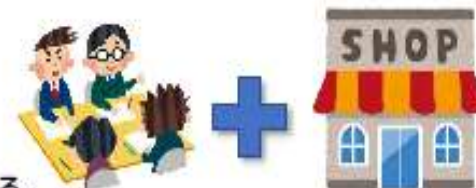
【目的】 関市内で創業を目指す人のための**創業支援の拠点施設「チャレンジLABO」**（仮称）

【所管課】 産業経済部 商工課

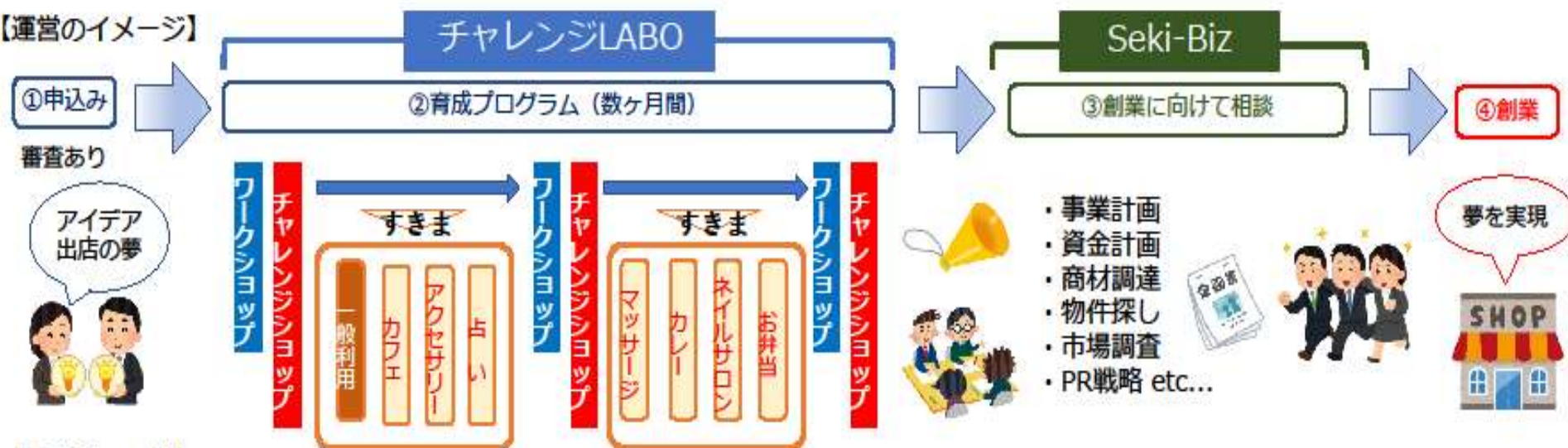
【内容】 創業・起業などのチャレンジを**初期段階から支援**する創業者育成プログラムを提供する。

- ・ワークショップ研修とチャレンジショップ出店をセットにした支援。
- ・ワークショップ研修で創業に関する意識醸成、基礎的知識の習得、アイデアの磨き上げなどを学ぶ。
- ・研修にあわせてチャレンジショップを出店してテスト販売などを行い、創業プランをブラッシュアップする。
- ・対象は、関市内で創業を目指す人のほか、具体的な計画をもっていない「創業を夢みる人」も広く受け入れる。

※育成プログラムでの店舗利用以外の「すきま」にて、**一般利用者への貸し出し**を行う。



### 【運営のイメージ】



### 【スケジュール】

